

| | |
|-------------------------------------|---|
| 科目名 | ウィメンズヘルス看護学特論 Topics in women's health nursing |
| 授業形態 | 演習 |
| 標準履修年次 | 1年次 |
| 実施学期・曜時限等 | 春AB 月曜5,6時限 |
| 単位数 | 2単位 |
| 担当教員名 | 岡山 久代 Hisayo Okayama 川野亜津子 Atsuko Kawano 金澤 悠喜 Yuki Kanazawa |
| ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA) | なし |
| オフィスアワー等 | 岡山 久代 4B棟 509 okayama@md.tsukuba.ac.jp オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること |
| 授業の到達目標 (学習成果) | 主要科学雑誌やon lineの検索システムを用い、最新情報を得るための文献探索ができる。 論文を講読し、研究内容を要約して口頭で紹介することができる。 選んだ文献に関連したわが国における適切な資料を提示することができる。 選んだ文献に関連した理論について理解を深めることができる。 他の学生が選んだ論文を事前に読み論文解説を聞いて理解し、疑問点や当該研究の意義について討論することができる。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| 履修条件 | なし |
| 授業概要 | 思春期から成熟期・更年期にかけての女性の健康に焦点を当て、ウィメンズヘルスの視点から看護の方法を体系的に把握する。海外の文献を中心に論文講読を行い、女性と家族の健康と看護に関する最新の研究動向を理解し、看護課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を理解する。 |
| キーワード | 女性の健康 Women's Health 成長発達 Developmental Care 助産学 Maternity |
| 授業計画 | 文献クリティークを基本に行う。必要な事前準備をして講義に臨むこと。なお、グループディスカッションの時間を設ける。 1 (4/15 4限) (授業のガイダンス1) (岡山・川野・金澤) 2 (4/15 6限) (授業のガイダンス2) (岡山・川野・金澤) 3 (4/22 5限) (思春期の健康支援・性教育) (岡山・川野・金澤) 4 (4/22 6限) (妊娠期の女性・家族の発達課題と健康支援) (岡山・川野・金澤) 5 (5/9 5限) (分娩期の女性・家族の発達課題と健康支援) (岡山・川野・金澤) 6 (5/9 6限) (周産期における親子関係の支援) (岡山・川野・金澤) 7 (5/13 6限) (産褥期の女性・家族の発達課題と健康支援) (岡山・川野・金澤) 8 (5/13 6限) (健康な子どもと家族への看護) (岡山・川野・金澤) 9 (5/20 5限) (急性症状を呈する子どもと家族への看護) (岡山・川野・金澤) 10 (5/20 6限) (治療・処置を受ける子どもと家族への看護) (岡山・川野・金澤) 11 (5/27 5限) (周手術期における子どもと家族への看護) (岡山・川野・金澤) 12 (5/27 6限) (慢性疾患を有する子どもと家族への看護) (岡山・川野・金澤) 13 (6/3 5限) (障害を有する子どもと家族への看護) (岡山・川野・金澤) 14 (6/3 5限) (痛みのある子どもと家族への看護) (岡山・川野・金澤) 15 (6/10 5限) (ハイリスク新生児と家族への看護) (岡山・川野・金澤) 16 (6/10 6限) (End of Lifeにおける子どもと家族への看護) (岡山・川野・金澤) 17 (6/17 5限) (女性のライフサイクルと健康に関する課題) (岡山・川野・金澤) 18 (6/17 6限) (女性のリプロダクティブヘルスとヘルスプロモーション) (岡山・川野・金澤) 19 (6/24 5限) (不妊および不妊症の女性・カップルへの健康支援) (岡山・川野・金澤) 20 (6/24 6限) (更年期にある女性への健康支援) (岡山・川野・金澤) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 自分の研究テーマに関連した領域・看護分野の論文を精力的に読み進めるとともに、教員や学生間の討論を通し、科学的思考を身につける。 |

| | |
|-------------------------|---|
| 成績評価方法 | <p><評価方法と配分役割> 授業の到達目標の達成状況60%, 授業内での発表内容・参加状況40%</p> <p><評価基準> 1. 適切な問題を設定できる。 2. 設定した問題の背景を説明できる。 3. 設定した問題に対してどのような課題があるのかを指摘できる。 4. その解決策について、先行研究がどのように述べているかを挙げるができる。 5. 既存の意見をふまえて、自らの考えを述べるができる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～5を自身で達成できる。 A 上記1～5をほぼ自身で達成できる。 B 上記1～5を教員の指導を受けながら達成できる。 C 上記1～5を教員の指導を受けながら概ね達成できる。</p> |
| 教材・参考文献・配布資料等 | 取り上げる文献については、事前に連絡をする。研究方法の資料等は各自で必要に応じて準備すること。 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | |